

令和7年度 第4回 砂丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月17日（火） 14時00分から16時00分まで
- 2 開催場所 砂丘小学校 コミュニティルーム
- 3 出席委員 鈴木 康介、高島 大輔、小林 あけみ、鈴木 ふじ子、岡本 千香
川嶋 利博、竹内 孝夫、森山 智絵、梅村 瑛子
- 4 欠席委員 西尾 進治
- 5 オブザーバー 齊田 剛志（白脇協働センター）、松下 克己（中田島観光協会）
- 6 学校支援コーディネーター 森下 泰子
- 7 学 校 長瀬 千晶（校長）、河村 誠（教頭）、窪野 信洋（教務主任）
越川 真優子（CSディレクター）
- 8 傍 聴 者 1人
- 9 会議録作成者 CSディレクター 越川 真優子
- 10 議長の選出 前回会議で鈴木ふ委員を推挙する旨の発言があり全員異議なくこれを承認した。
- 11 協議事項

- (1) 学校関係者評価について
- (2) 学校運営協議会の自己評価について
- (3) 令和8年度学校運営基本方針および来年度の変更点について

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価について

議長の指示により、教務主任から別紙資料に基づき、12月実施の学校評価アンケート集計結果と考察について説明があった。昨年度と異なるところは、主体性、自分らしさ、他者尊重の項目。粘り強さも昨年よりパーセントが落ちていて、子ども大人ともに同じような感覚でいることがわかる。地域の方、保護者と一体となって教育活動を行っていることが本校の強みであり、粘り強さについて来年度力を入れるような教育課程を編成していると説明があった。委員からは、以下の発言があった。

- ・粘り強さが課題。1年から6年までの作品を整理していた時に感じたことだが、低学年の時のほうが細かくできていた。あまり頑張ろうという気持ちがなくなってきたのか、どのようにやる気をおこさせたらいいのか。（森山委員）
- ・高学年にももう少し頑張ってもらいたいと思うところ。（梅村委員）
- ・地域からの目で見ると公園で遊んでいるのを隣保から注意があつて遊べなくなった状況がある。公園があつてもそこで遊べないことについては、何か手立てを考えなくてはならない。（小林委員）
- ・児童会から見ると全学年で遊べることはよい。粘り強さが課題で、ひとつのことをしていると飽きてくる。飽きるまでの時間が短いと感じる。もう少し取り組んでみるのが大事だと思う。（岡本委員）

- ・自分の子どものときと人数が全く違う。このような少人数でこれから先どのように取り組んでいけばよいのか気になるところ。よい形ですすめていければと思う。(竹内委員)
- ・学校評価アンケートの集計結果中、児童数、実家庭（保護者）、教員数について備考欄に実数が入っていれば、パーセントを今以上に把握しやすい、実感しやすいと思う。(川島委員)
- ・児童評価はおそらく正しい数値だと思われる。評価で分析するにはこのような形がやりやすいと思うが、検討をしてみしてほしい。旗振り時の声が小さい子を見ると自分に自信がないのかなと少し心配。声を出すことによって自信がついてくることがあるのかもしれない。朝、しっかり挨拶をするなど取り組んでみてはどうか。(鈴木康委員)
- ・わかりやすい授業で最適な学びができています。グラウンドでの遊び道具、今の時代にあった遊び道具であれば集中もしやすくなるのではないかと。(高島委員)
- ・花壇活動中、子どもたちに声をかけると一緒に作業をしてくれる。関心を持ってくれることが嬉しい。(森下コーディネーター)

また、教頭からいじめ防止等のための基本的な方針について関することとして、令和6年度から継続していたこと、今年度新たに認知したもの、解消したもの、未解消のものについて説明があった。未解消のものは、人間関係におけることでお互いにもう少し時間が必要。砂丘小は、多くの大人の目線で子どもを見ることができる学校。迅速に対応、組織的に取り組めることが、強みであることから来年度も引き続き取り組んでいきたいと説明があった。委員からは、以下の発言があった。

- ・砂丘小は、外国籍の児童の割合が高い。言葉の壁があつたりすると思うが、寄り添えているか。(高島委員)
- ・いじめの概念が難しいため、いじめの判断がしにくい。過敏に反応する子など基準が違ふように思う。今後、いじめに関する具体的なものを出せるのであればみんなの情報共有、いじめに関する価値観をともにするため出してほしい。(鈴木康委員)
- ・どこまでがいじめか、どこまでが遊びなのか見えてこないところもある。学校側のジャッジ、保護者、児童の感じ方が自分たちの時代とかなり変わっている。(川島委員)
- ・このように情報をオープンにしていることは大変ありがたいと思う。(竹内委員)
- ・大人数でいた時より、学校生活そのものが平和。以前は、児童会でも陰湿ないじめがあったが、それがそんなにない。(岡本委員)
- ・加害者が「ごめんね」と言っただけでは終わらないのか。(小林委員)
- ・コミュニケーションスキルが弱い。相手のことを想像する力(想像力)がないように思う。子どもから事案を聞いた場合、保護者としてどのように声掛けをすればよいのか。(梅村委員)
- ・今の子は、みんなゲームで遊ぶ。持ってないと話に入れない。遊びに行ってもインスタ、TikTokなどの内容で人間関係がスマホの出現によって壊れている気がする。(森山委員)
- ・小規模校のいいところもあるが、たくさんの児童と交われる(多様な子と関わる)ことの不足をどのように補っているのか。10人位いるとちょうどよいと思っていて、小さい頃に学びがあるが、より他の学年と関われるように考えないといけないと思っている。なる

べく固定化された人間関係にならないように工夫していかなければならないと考えている。(鈴木康委員)

- ・先生たちが対処してくれている。このようにいじめのことを話せるというのはいいことだと思う。(森下コーディネーター)

(2) 学校運営協議会の自己評価について

別紙資料に基づき、教頭から説明があり、全員で確認した。

(3) 令和8年度学校運営基本方針および来年度の変更点について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・包摂する部分など先生方がとても大変。根本が変わっていくため、どのように教育していくのか先生方の研修も必要である。時代の流れで価値観が変わってきている中での取り組みであり、一歩ずつやっていく、一斉授業が成り立たなくなってきたことへの対応といえるのではないかと。(鈴木康委員)

協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

その他報告事項等

- ・学校支援コーディネーターから、千日紅を使ったリースづくりと書き初め講座について報告があった。また、花壇活動についてもカレンダーどおりの活動をしたことの報告があった。
- ・教頭から夢育やらまいか事業補助金（CS加算分）についての報告があった。
- ・教頭から通学路の危険箇所について、それぞれ地域で気づいた箇所があれば要望を出していきたいとの説明があった。
- ・教頭から別紙資料に基づき、来年度の学校運営協議会日程について説明があった。来年度第1回は、4月22日（水）午後2時からコミュニティルームで開催し、その日は校内参観を実施するので、学校の様子や児童の様子を見ていただきたいと話があった。
- ・教頭から来年度学校運営協議会委員は総数8名、学校支援コーディネーター3名で活動することについて報告があり、今年度で退任される委員に謝辞があった。
- ・松下さん（オブザーバー）から、来年度学校運営協議会委員を務めるにあたって、学校に来て学校の様子、児童のことなど知る機会をもちたい。教員の働き方改革もあるが、地域が受け皿になることができればよいと発言があった。
- ・斎田さん（オブザーバー）から、白脇協働センターでも講座を開講しているので、砂丘小学校の児童たちにも参加していただきたいとの発言があった。